

# 差別発言・秘書官を更迭

## 首相の同性婚答弁巡り「隣に住むのも嫌」



荒井勝喜秘書官の更迭を表明した岸田文雄首相=4日、代表撮影

岸田文雄首相は4日、性的少數者や同性婚をめぐって「隣に住んでいるのも嫌」と嫌だなどと差別発言をした荒井勝喜・首相秘書官を更迭した。首相は「内閣の考え方には全くそぐわない、言語道断の発言だと」批判したものの、首相側近が差別発言をしたことで、首相や政権の人権意識が疑われる事態になった。首相秘書官の更迭も極めて異例で、今後の政権運営に大きな打撃になつた。

▼3面=首相の広報役、6面=社説、27面=当事者は

## 首相の人権意識に疑問も

に対する「同性婚を認めた國を捨てる人が出てくる」といった趣旨の発言をした。

岸田政権では昨年8月の内閣改組に合わせ、「LGBTには生産性がない」とする月刊誌への寄稿などが問題視されていた自民党の杉田水脈衆院議員を総務政務官に起用した。昨年12月、事実上更迭したもの、性的少數者や同性婚について、「見るのも嫌め、「完全に撤回させていた発言の内容はおおむね認め、批判が集まつたばかりだった。

首相は出張先の福井県坂井市で記者団の取材に対し、荒井氏の差別発言を批評し、「性的指向、性自認を理由とする不当な差別、偏見はあってはならない」と強調。その上で「多様性が尊重され、全ての方々の

人権あるいは尊厳を大切にし、共生社会の実現に向けて取り組んでいく」と述べた。任命責任は「当然、感じている」とした。

首相は同性婚の法制化をめぐり、1日の衆院予算委員会で「社会が変わったし」「秘書官室もみんな反対だ」と答弁した。



荒井勝喜  
首相秘書官